

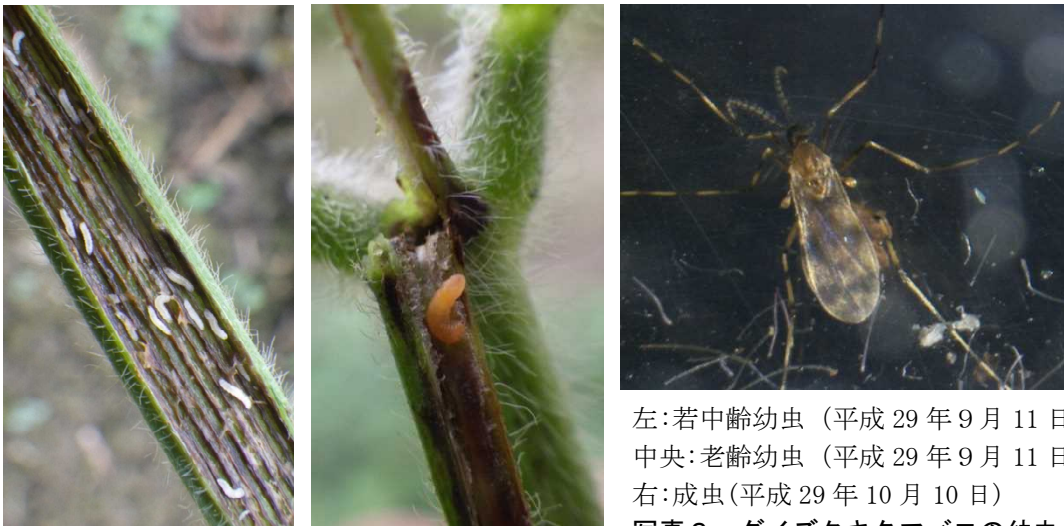
[畑作部門 令和2年度 指導参考資料]

事項名	大豆のダイズクキタマバエによる被害症状の特徴		
ねらい	平成 29、30 年に県内の大豆で複葉数枚が枯死し、葉柄部分に不定形の褐色斑を呈した株が持ち込まれた。原因を調査した結果、ダイズクキタマバエによる被害症状であることが判明した。本種は明治～昭和初期に北日本の広域で大豆の皆無作を引き起こした害虫であることから、被害の特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 発生状況 発生地点：津軽地域 5 地点 発生時期：7 月下旬～9 月下旬（図 1） 品種：おおすず 発生面積：4～5 ha</p> <p>2 被害の特徴 (1)発生初期には小葉裏面の葉脈が褐変する。その後、下位葉の枯死や上位の複葉数枚から全ての萎凋および枯死・落葉が認められる（写真 1 左、中央）。 (2)茎および葉柄部分に不定形の褐色斑を呈し、縦裂すると内部に褐変が認められ、発生期には体長 3mm 内外の蛆状の幼虫が複数確認される（写真 1 右、写真 2 左）。 (3)産卵は小葉の基部に行われ、発生初期の被害は葉柄部分に多い。被害が主茎部に達した場合、主茎部から折れて倒伏する場合がある。</p> <p>3 種名および形態的特徴 (1)種名：ダイズクキタマバエ (<i>Resseliella soya</i>) (2)若齢幼虫は半透明、中齢幼虫は乳白色。老熟幼虫は体長 3mm 内外で、鮮やかな橙色となる。（写真 2 中央）。 (3)成虫は雌 2.4mm、雄 1.6mm 内外。複眼は黒色で、体色および平均棍は淡黄褐色。翅及び脚部は黒色の斑模様（写真 2 右）。</p> <p>4 発生生態 (1)大豆作付期間中に 2 世代の発生が認められる（図 1）。 (2)発生初期は葉柄部分の内部を食害する。若中齢期に葉柄部分の餌資源を消費した後、中老齢幼虫期が主体となって主茎内部を食害する（図 1）。 (3)平坦地よりも山間地で多発する傾向がある（図 2）。</p> <p>5 耕種的な防除対策 (1)日当たりが良く、通気性の良い場所で栽培し、圃場の排水性を高める。 (2)密植・多肥を避ける。 (3)被害葉を発見次第、圃場外に持ち出して適切に処分する。</p>		
期待される効果	大豆におけるダイズクキタマバエの特徴と被害症状を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 本種に対する登録薬剤は令和元年 11 月 19 日現在ない。</p> <p>2 本種の同定は肉眼では困難なので、被害が目立つ場合には関係機関に同定を依頼する。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	農林総合研究所 病虫部（0172-52-4314）	対象地域及び経営体	県下全域の大豆作付経営体
発表文献等	平成 29、30 年度 試験成績概要集（農林総合研究所） Gen Bank Accession Number:LC469342.1&LC469343.1 北日本病害虫研究会報（第 70 号）		

【根拠となった主要な試験結果】



左: 枯れた小葉 中央: 複葉が枯死し、下位葉が落下した株 右: 茎表面の不定形斑 (平成 29 年 9 月 11 日)
写真 1 ダイズクキタマバエ幼虫による被害症状 (平成 30 年 青森農林総研)



左: 若中齢幼虫 (平成 29 年 9 月 11 日)
中央: 老齢幼虫 (平成 29 年 9 月 11 日)
右: 成虫 (平成 29 年 10 月 10 日)

写真 2 ダイズクキタマバエの幼虫と成虫 (平成 30 年 青森農林総研)

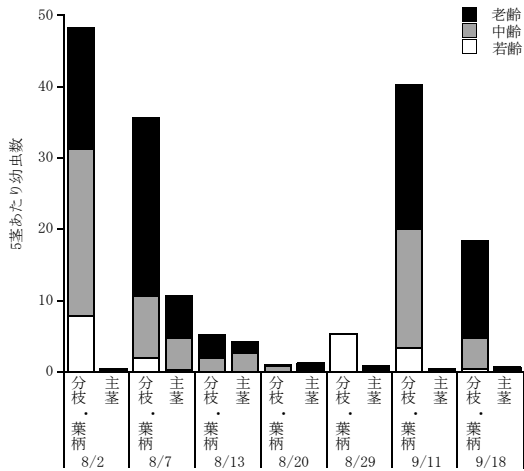


図 1 幼虫の部位別発生推移 (平成 30 年 青森農林総研)

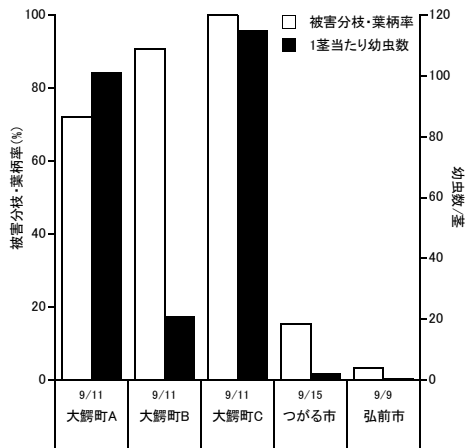


図 2 幼虫数と被害割合 (平成 29 年 青森農林総研)